

虹の橋を渡つたみんなが

背中を押してくれた。

Sakata Akiko

酒田晶子



犬と猫が、ずっと家族

私は幼いころから、家族同然に犬や猫がそばにいる生活をしてきました。彼ら（彼女ら）と過ごす幸せな時間は、いつも心を癒してくれましたし、今も大好きな愛犬、愛猫とともに暮らしています。ヘルシーアニマルズを起業するよりずっと前の2002年から、北海道の食材を使用したレストラン事業や加工食品の企画製造を行っていますが、その仕事を通じて食の大切さ、食材選びの重要性を実感していました。食べ物や口にするものが体を作り、良い食べ物は安心安全な食材から生まれます。体にいいものを人間だけじゃなく、大切な家族であるペットにも食べさせてあげたい。それが「理想のペットフードを作りたい」という熱い夢につながっていきました。



ハンバーグがつないだご縁

ペットフードを作るといつても、そのころは知識もなく、すぐに取りかかることはできませんでした。

想いを大切に温めながら過ごして数年がたったころ、仕事を通じて運命の出会いが訪れました。それは2012年のこと。経営しているレストランで、「短角牛」のお肉を使つたハンバーグを提供することになりました。正式名を「日本短角種」といい、希少な和牛の一種です。昔からの在来種で、その肉質は赤身が中心。札幌に近い江別市にある酪農学園大学で飼育されていてそのおいしさが評判の肉でした。

科学です。獣医学の先生ということで、私が「本当に良いペットフードを作りたい」という夢をお話しになりました。「どうせ作るなら、北海道を代表するペットフードを作りましょう！」と盛り上がり、共同研究をはじめくださることに。思いがけないきっかけで、あたためていた夢が実現に向けて大きく動きはじめたのです。

大切な腸内環境

家族の一員である大切なペットに、品質の分からぬ食材を与えるわけにはいきません。私は「自分が食べている食材そのものでペットフードを作ろう」と心に決めました。

そこから、本当に良いペットフードやサプリメントを開発するために、改めて勉強を開始。人間もペットも、健康で長生きをするためには、免疫と腸内環境がとても大切だ

ということを学びました。身体の免疫の70%は、腸内環境で決まるそうです。どんなに栄養のある、体に良いものを食べても、腸内環境に問題があれば台無しなのです。そのため腸内環境を考えたサプリメントや、その成分を配合したおやつの開発に取り組むことになりました。

そして酪農学園大学とコラボをはじめたご縁で、宮庄拓（みやしょう・たく）先生と出会うことになりました。宮庄先生は、獣医保健学類の気鋭の若手研究者。ご専門は動物生命科学です。獣医学の先生ということで、私が「本当に良いペットフードを作りたい」という夢をお話し始めたところ、意気を感じてくださいました。「どうせ作るなら、北海道をはじめくださることに。思いがけないきっかけで、あたためていた夢が実現に向けて大きく動きはじめたのです。

忘れてはいけない 愛猫との別れ

そんな中、当時7歳だった愛猫のアメリカンショートヘア「マハロ」の調子が悪くなりました。2013年のことでした。人間でいうと40代、もう中年ではあります。シニアというにはまだ早く、あと10年は十分一緒に過ごせる年齢です。しかし動物病院で検査をしてみると、大きな腫瘍ができていることがわかり、とてもショックを受けました。「この子の命が助かるなら、どんな治療でもしてあげたい！」と思いました。健康だと思っていたペットに命に関わる病気が見つかったときの飼い主さんは、こう考える方が多いと思います。その気持ち

を痛いほど味わいました。しかしそのころはまだまだ勉強中で、ペットの健康に関する知識も少なく、治療は動物病院にまかせることしかできませんでした。そして病状はどんどん悪化していき、心の準備もできないまま悲しい別れを迎ってしまったのです。

私は、動物病院が悪かったとは全く考えていません。獣医さんはできる限りのことを一生懸命やってくださいました。ただ、今から考えれば、病院での治療以外に私が飼い主としてやってあげられたことがたくさんあった気がしています。



予防は治療に勝る

この出来事もあって、私はますますペット用のサプリの勉強に力を入れるようになりました。「予防は治療に勝る」という言葉がありますが、まさにそのとおりです。ペットも人も病気になってしまったら病院で治療をすることになります。そうなつてつらい思いをする前に、日ごろから予防することが大切ですね。そのため食べものや運動などの生活習慣が重要なんですが、食事だけでは摂取しきれない栄養成分もあります。

それを補うのがサプリメントで、アメリカなど予防医学の発達した国では大きな役割を果たしています。とはいえる人間用のサプリをペットに与えるのは不安がありますね。そこで私たちは、高品質な人でも使える地産地消の原料でサプリメントを作りました。それが「北海道植物発酵酵素サプリ」「北海道たもぎ茸サプリ」「酵素とたもぎサプリ配合のおやつ」の3種類でした。



「病気になる前から予防できたのではないか?」「少しでも早く見つけることができていたら?」「自分にもっと知識や手段があれば?」愛猫を失った悲しさに加え、悔やんでも悔やみきれない気持ちで、ひどい無力感にさいなまれました。今も思い出すとつらいのですが、マハロのことは絶対に忘れてはいけないと心に決めました(忘れようと思つても忘れられませんが…).同じ後悔を味わう人をひとりでも減らしたい。マハロがそう思われてくれました。

これらのサプリを発売する前、我が家では柴犬とビーグルを新しい家族として迎えていました。この育ち盛りのふたり（あえて「ふたり」と呼ぶせてください）、元気いっぱいなのはもちろん、おやつが大好きでした。かわいくてたまらないので、あれこれ市販のペット用おやつを与えたものです。中でも、とある市販のおやつが大好きでしたので、毎日のように与えていました。そんなある日、いつもどおりそのおやつをあげてしばらくすると、柴犬のラキーに異変が…。「ママ、かゆいよー！」とばかりに、

体をバリバリかきむしっているのです。体を見ると、脇や股の皮ふが真っ赤に！ 激しくかきむしったうな状態でした。お風呂にも入っているし、散歩のときも気をつけているのに急にどうして？ あわてて動物病院に連れていくと、「アレルギー性皮膚炎」、中でも「食物アレルギー」と診断されました。毎日のように与えている食べものが、食物アレルギーの発症原因となることが多いそうです。もしかしたらあのおやつが原因だったのかもと考えるとショックでした。

突然の食物アレルギー



食物アレルギー（食物有害反応）とは、食べものの中に含まれるたんぱく質を、体内の免疫システムが「アレルゲン（アレルギーの原因）」と認識してしまうことによって、さまざまな症状があらわれることです。

ラキーにはアレルゲンを除去した食事を与える食餌療法を行いながら、薬で症状を抑えていくという治療となりました。かゆみが出ると、どうしても搔いてしまって皮膚症状が悪化します。さらにその場所に、真菌やマラセチアなどの細菌感染が起きることもあります。ですので、まずはかゆみを抑えるステロイ

ドキにはアレルギーを除去了した食事を与える食餌療法を行なが

うして、薬で症状を抑えていくという治療となりました。かゆみが出ると、どうしても搔いてしまって皮膚症状が悪化します。さらにその場所に、真菌やマラセチアなどの細菌感染が起きることもあります。ですので、まずはかゆみを抑えるステロイ

ド系の薬を使う治療が一般的です。ただステロイドは使用が長期間にわたります。またラキーはまだ子犬。まだ発売前だった「酵素サプリ」と「たもぎ茸サプリ」を服用させることに。その結果、予想より早く症状が改善し、あまり時間がかかりずく間に薬を卒業することができました。元気になって安心したのはもちろん、これから発売するサプリに自信を持つことができました。

サプリの効果を実感

はじめてのペット向けサプリを発売したのは2015年。それが「北海道植物発酵酵素サプリ」で、今もロングセラー商品です。植物発酵酵素とは、野草や野菜、果実などさまざまな植物素材をじっくりと発酵させて作るエキスで、人のための健康食品にも活用されています。なぜこの酵素をペット向けの素材にしようと考えたかというと、家族の体験がきっかけになっています。私の母は昔から体が弱く、長いあいだ、さまざまな薬や健康食品を試してきました。その中で体质改善にとても効果的だと

感じたのが、植物発酵酵素だったんです。開発パートナーである酪農学園大学の宮庄先生に相談したところ、臨床で研究・検証を行つてくださいました。その結果、人間だけではなく、ペットのストレス緩和、腸内環境の改善にも良い働きをすることがわかりました。「免疫細胞の70%は腸にある」といわれていて、健康や長寿の決め手は腸内の環境づくりです。植物発酵酵素は、腸内の善玉菌を良好な状態に保ち、病気になりにくく治りやすい体作りに役立ちます。

腸内環境に効果的なサプリ第一号の完成

メインクーンの男の子レイ。
ムードメーカーで犬のような猫。
大型の猫に多い心筋梗塞で永眠。
2016年、8歳のときでした。

抗酸化物質が豊富な たもぎ茸

うれしい反響を得て、次はどんなサプリをと考えていたとき頭に浮かんだのが、黄色いきのこ「たもぎ茸」でした。とてもおいしいきのこですが、実はスーパーきのことわかれています。ベータグルカンの含有量がアガリクスの3倍、アミノ酸の総量はアガリクスの6・5倍も含まれ、栄養豊富でさまざまな効果があるようです。

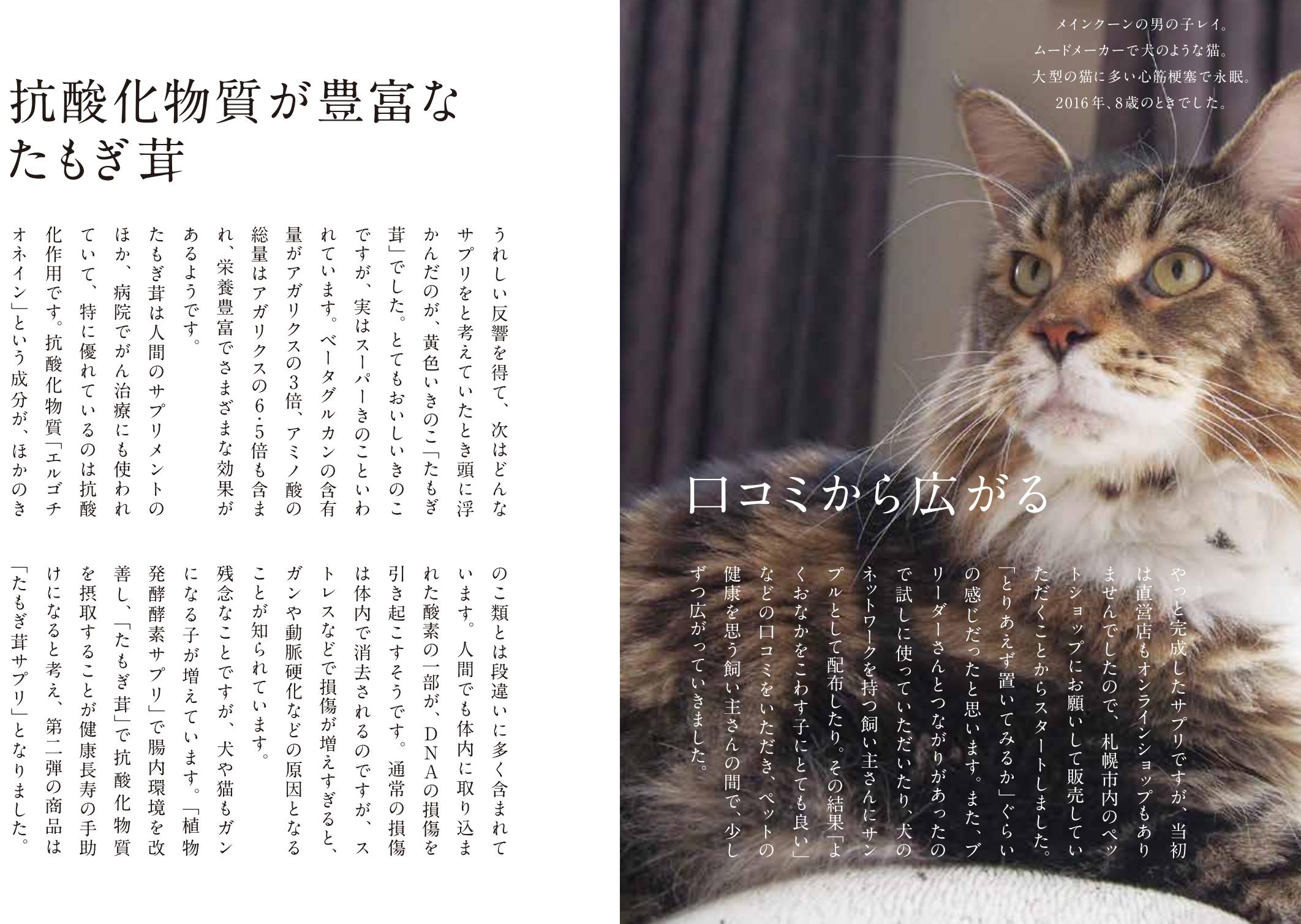
たもぎ茸は人間のサプリメントのほか、病院でがん治療にも使われていて、特に優れているのは抗酸化作用です。抗酸化物質「エルゴチオネイン」という成分が、ほかのき

口コミから広がる

やつと完成したサプリですが、当初は直営店もオンラインショップもありませんでしたので、札幌市内のペットショップにお願いして販売していただくことからスタートしました。「とりあえず置いてみるか」ぐらいの感じだったと思います。また、ブリーダーさんとつながりがあったので試しに使っていただきたり、犬のネットワークを持つ飼い主さんにサンプルとして配布したり。その結果「よくおなかをこわす子にとても良い」などの口コミをいただき、ペットの健康を思う飼い主さんの間で、少しずつ広がっていきました。

のこ類とは段違いに多く含まれています。人間でも体内に取り込まれた酸素の一部が、DNAの損傷を引き起こすそうです。通常の損傷は体内で消去されるのですが、ストレスなどで損傷が増えすぎると、ガンや動脈硬化などの原因となることが知られています。

残念なことですが、犬や猫もガンになる子が増えていました。「植物発酵酵素サプリ」で腸内環境を改善し、「たもぎ茸」で抗酸化物質を摂取することが健康長寿の手助けになると考え、第二弾の商品は「たもぎ茸サプリ」となりました。



余命3か月 突然のガン告知

たもぎ茸サプリ」をみなさんにお使いいただきました。私2015年5月のことでした。私の愛猫が、ショットヘアと空咳をするようになつたのです。当時8歳のアメリカンショートヘア「レア」でした。とてもかわいい子で、それまで特に体が弱いということはありませんでした。猫が咳をすらりませんで。猫が咳をすると、猫風邪（上部気道感染症）を疑うことが多いと思います。私もそう思い獣医さんに診てもらいました。念のため検査を受けると、

猫では比較的珍しい肺ガンだったのです。まだ高齢でもないですし、食欲もあり咳以外には症状もなかつたのに、肺に腫瘍ができていきました。すぐに大学病院に通院し、精密な検査を受けたところ、余命3か月という診断。猫の肺ガンには手術で切除できるものとできないものがあるそうです。レアのガンはアメーバ状に広がっていて、手術で切除することができないタイプとのことでした。



抗がん剤を中止

大学病院からは、抗がん剤（飲み薬）による治療をすすめていたので、まずは取り組みました。動物の抗がん剤は、おもにQOLを高めるために使われることが多いため、人間の場合ほど副作用（さまざまな細胞への傷害）はないそうです。しかし1回与えただけで、それまで旺盛だった食欲が全くなくなってしましました。これは抗がん剤投与直後に起きる、消化器毒性といわれる症状で、ひどくなると入

院することもあるそうです。
私は悩みました。余命3か月で手術もできないような状態。このまま抗がん剤治療を続けさせれば、家族と離れて入院する可能性もありました。最終的に、抗がん剤治療をやめ慣れ親しんだ家で過ごす中でできることを行っていく道を選ぶことに。手術ができないならストレスを与える、最後まで一緒にいたいと考えたからです。



余命3か月が 2年2か月に

それからはとにかく、なんとか一日でも長生きしてほしいという一心で、一生懸命できることをやりました。この子の自然治癒力に賭けようと考え、植物発酵酵素サプリとたもぎ茸サプリを与えてみました。液体タイプ5mlを一日2回から3回シリングで与え続けたところ、まず

も同じ気持ちだろうと思います。

そんな日々を過ごすうち、咳が少なくなってきたことに気がつきました。食欲があるので体重も増えてきて。抗がん剤治療はやめましたが、3週間に一度、病院にはレントゲン検査に通いました。ガンが大きくなつていなか、転移していないかを確認するためです。毎月、検査を受けるたびにドキドキしましたが、その後、不思議なことにガンの進行は止まり、他の臓器への転移も見られませんでした。何より、レア本人が辛そうではなく、穏やかで平和に過ごせているのがうれしかったのを覚えています。

は抗がん剤治療で失われていた旺盛な食欲が戻ってきました。私も仕事があるので常に一緒にいられるわけではありませんでしたが、外出して家に帰り顔を見ると、「今日も元気でいてくれた」とホッとすると毎日でした。きっと今、病氣のペツトをお世話されているご家族の方々も元気でいてくれた」とホッとする毎日でした。きっと今、病氣のペツトをお世話されているご家族の方

は抗がん剤治療で失われていた旺盛な食欲が戻ってきました。私も仕事があるので常に一緒にいられるわけではありませんでしたが、外出して家に帰り顔を見ると、「今日も元気でいてくれた」とホッとすると毎日でした。きっと今、病氣のペツトをお世話されているご家族の方々も元気でいてくれた」とホッとする毎日でした。きっと今、病氣のペツトをお世話されているご家族の方

家に現れた 白い猫ちゃん

物心ついたときから家に犬や猫がいて、一緒に育ってきたということをお話しました。そして大人になつても、いつも複数の犬や猫と暮らしてきました。中にはすばらしいブリーダーさん出身でショーンに出るカツコいいワンちゃんや、ご縁があつてうちの子になつてくれた元保護猫ちゃんもいました。私にとつては、どの子も可愛い「うちの子」です。

ある秋のこと、家の玄関に白っぽい猫が来たので、ごはんをあげるようになりました。やがて冬になって最初は車庫にいたのですが、やはり寒くてかわいそうなので家の中に入れて一緒に住むことになり、シロと名づけました。うちの子になつてからも、外で暮らしていたのが信じられないぐらい、おとなしい猫ちゃんでした。

診断は 脾臓肥大症

それから数年は病気もせず平穏に暮らしていましたが、動きが悪く、食事を口にしなくなつてきたため獣医さんに相談することに。2011年2月のことです。検査を受けたところ、脾臓（ひぞう）が大きく腫れています（肥大している）ことがわかりました。脾臓は、血液中の老廃物

や異物を取り除くフィルターのような役割の臓器です。また、免疫を司る働きもあります。この子の年齢は推定でしかわかりませんでしたが、猫の脾臓の病気はシニア猫に多いそうです。もはや命に関わるほど肥大しているということで、脾臓を摘出することになりました。



術後の余命は数か月

脾臓は病気になつても症状が現れづらく、気づいたときにはかなり進行していることが多い臓器です。脾臓摘出手術を受けた猫の余命は、平均数カ月ともいわれています。うちの子は手術後、病理検査で肥満細胞腫という診断を受けました。獣医さんからは「術後1年がんばってくれたらすごいことですよ」といわれました。肥満細胞腫とは、肥満細胞と呼ばれる細胞由来の悪性

腫瘍です。肥満という言葉がついていますが、太っているかどうかとは関係ありません。猫の肥満細胞腫には、皮膚にできる皮膚型と内臓にできる内臓型があり、内臓型の場合は脾臓や消化管に生じることが一般的です。すでに他の内臓にも転移していたので、最悪の場合を覚悟しましたが、できるだけのことをしようと思い、サプリの投与やフードの工夫に取り組みました。

幸せな3年の時間

フードは、できるだけ添加物の少ないものを。食欲が落ちることが一番怖いので、食いつきの良いウエット系を多くして、液体の酵素サプリとたもぎ茸サプリ、それぞれ一日5mlを数回に分けてシリングで与えました。また、余命一年といわれていたので、一日でも長く楽しく過ごしてもらおうとマイベッドを用意し、体だけは冷やさないよう室内的温度・湿度管理に気を使いました。その甲斐があつてか、回復は早かつた記憶があります。その後、定期的に病院で検査を受けていましたが、



かに虹の橋を渡りました。余命1年でも十分といわれた状態でした。が、診断を受けてから、3年以上が過ぎていきました。その間、シロはもちろん、私も穏やかで幸せな時間を過ごすことができました。

ともなく、2019年5月1日、静

ペットショップから、生まれつき疾

患を持つ猫ちゃんを引き取って、

里親としてお世話させていたい

ことがあります。疾患がある場合、

良心的なペットショップならそのこ

とを知らずに販売しませんし、

そのような場合も尊い小さな命で

あることに変わりありません。

ある日、いつも前を通るペットショッ

プの店頭に貼り紙を見つけました。

ヘルシーアニマルズが本格スタート

する前、2014年夏のことです。

内容は子猫の里親募集でした。

その子は、ノルウェージャンフォレ

ストキャット。とてもかわいい顔の

男の子でした。

ペットショップで販売されるはずで

したが、病弱だったので検査をし

たところ、血管内に先天的腫瘍を

持っていることがわかり、余命 2

か月から半年とのこと。ショップの

方は、短い命であっても、そのこと

を理解して飼ってくださる方のも

とで、幸せな時間を過ごしてほし

くて、里親の募集に至ったということ

でした。読んで心が震えました。

貼り紙を見つけたのも何かのご縁

です。「家族になつて、できるだけ

のことをしてあげたい！」と引き

取りを申し出ました。

先天的腫瘍の男の子



短い間でも一緒に



さて、その子を引き取り「ひかる」と名づけて愛情たっぷりに育てはじめました。笑顔がとても素敵で、性格も温和。なぜか車に乗るのが大好きで、一週間に一度の通院はドライブ気分。手術をすることができないならとにかく進行を遅らせようと、開発したばかりの植物発酵酵素サプリを毎日飲ませていました。

酵素サプリを毎日飲ませていました。まだもぎ茸サプリができることでした。余命といわれた半年も過ぎ、元気に過ごしてくれていましたが、7ヶ月後ぐらいから

食欲が落ちていきました。その後にはかなり痩せてしまったので、食欲を落とさないことを一番に気をつけて、食事は一日3～5回に分けて与えることに。最後は食事すらできない状態になりましたが、酵素サプリだけはしっかりと飲んでくれました。

我が家にやって来てから9ヶ月を過ぎた2015年5月に、ひかるは虹の橋を渡りました。最後にひと口だけごはんを食べ、その数時間後、眠るように旅立ちました。

門脈シャントの女の子



里親となつた2匹目がやつて来たのは、2016年7月のこと。懇意にしているペットショップから、先天的に病弱なノルウェージャンフォレストキャットの女の子がいると相談を受けました。引き取つて動物病院で診察していただくと、猫には非常に珍しい「門脈シャント」と診断されました。通常、胃腸からは門脈という血管が肝臓に向けてつながつていて、門脈から送り込まれた血液は肝臓で解毒されてから全身に送られます。この病気の場合、胃腸からの血液が肝臓を経由せず、通常なら血中に流れ込むことのないアンモニアなどの有毒

物質が全身をめぐつてしまいさまざまな症状が引き起こされます。これを治療するには、外科手術しかありません。シャントを手術で閉じ、胃腸からの血液を門脈経由で肝臓に流れる通常の循環に戻します。その難易度は高く、命に関わる後遺症が起きることもあります。この子のシャントは大きいので、数回の手術を要することのこと。院長は、病院で預かつて治療を受けさせることを提案してくださいました。一緒に暮らせないのは寂しかつたのですが、彼女のことを考えるところですが、彼女のことを考えることのほうが良いと思い、お申し出をありがとうございました。

病院でもサプリを

病院で暮らしあげ始めた「ノンノン」に、私は植物発酵酵素サプリ、たもぎ茸サプリを届け、毎日投与していただきました。病院の献身的なご尽力もあり、手術後の回復は早く、その後もサプリの投与を続けていただきました。病状も安定し、平穀な日々を過ごしてもらうことができました。「あと半年しか生きられない」といわれていたのに、2018年10月31日まで頑張つて

眠るように虹の橋を渡りました。あつという間に2歳を超えていたんです。2歳というと短く感じますが、何もしなければもつと早く消えてしまった命だったかもしれません。体力の維持や病状の安定に、私たちのサプリが役立ったことをうれしく思っています。先天的に何らかの疾患を持つ子も、飼い主さんとの幸せな時間が少しでも長くなつてほしいと願つてやみません。



愛犬の外耳炎



ばしば抗生素質やステロイド剤などのお薬を使います。アルルも季節によって症状がひどく、ステロイド剤を使うことがありました。それらのお薬が悪いわけではないのですが、毎日使うなら、できるだけ自然のもので、安心して続けられる製品を作りたいな」とずっと考えていました。

2017年ごろに取り組んでいたことがあります。それは、「皮膚のトラブルがあるペットに役立つ製品」の研究開発です。私の愛犬でビーグルのアルルが外耳炎に悩まっていたのがそのきっかけでした。垂れ耳の犬種は、耳の中はどうしても蒸れやすいのです。温かく湿度のある耳の中は細菌やマラセチアなどの真菌が繁殖しやすい環境なので、外耳炎を起こすこともあります。また、近年はワンちゃんにも、アレルギー性皮膚炎が増えています。かゆみのあまり患部を搔きすぎて、細菌に感染してしまることがあります。治療にはし

アカエゾマツ精油との出会い

そんな折、酪農学園大学名誉教授で（社）Pine greceの横田博先生をご紹介いただきました。横田先生は人間のアロマテラピーにも使われる精油の抗菌、抗癌効果について、長年科学的に調べてこられた研究者です。近年は特に北海道産アカエゾマツ精油の持つ、抗菌、消

炎力などのすぐれた力に注目され、研究利用を促進する社団法人も立ち上げられ、精力的に活動されています。先生にご紹介いただいた北海道産アカエゾマツ精油は、その機能はもちろん、控えめでさわやかな森の香りがスキンケア製品にぴったりの素材でした。

そして看板商品に

2018年3月、このアカエゾマツ製油を使つた「スキンプロテクトスプレー」を発売。フレードやサプリと違つて、しつかり説明しないとわからない商品なので、ショップでの対面販売では、ていねいに解説するところからはじめました。日ごろサプリを摂取されている子や、皮膚トラブルを持つ子の飼い主さんに反応がよかつたように思います。

この商品は決してお安いものではありませんが、長く薬を使うことや、定期的に通院する時間、経済的負担などを考慮すると、ペットにも飼い主さんにも優しい製品であると自負しています。

そのうち、アトピーやマラセチア、膿皮症などで悩んでいた飼い主さ

わが家のリーダー

アロハはわが家の猫や犬たちの中
心的存在の男の子。おやつも一番先
ですし、新しいおもちゃなどまず
はアロハから試します。お花が好
きで家の中のお花を変えた時は必
ず、香りを確認しに行ったりしまし
た。お風呂も大好きで近くにいく
とドアを開けてとかシャワーを出
せとか合図をし、シャワーでビシヤ
ビシヤになりながら遊ぶ子でした。

新入の猫や犬が来たら教育係はア
ロハで、絶対的なリーダーでしたね。
そんな子が突然腎臓の病気に。
2019年8月、夏の暑い日のこと。
食欲が少し落ちて顔つきがいつも
と違ひ少し厳しくなったアロハをす

アロハはわが家の猫や犬たちの中
心的存在の男の子。おやつも一番先
ですし、新しいおもちゃなどまず

ぐに病院へ。血液検査を行うと腎
臓の数値が振り切っていました。

クレアチニンが9.6（基準値0.8～2.4）、

尿素窒素が77（基準値16～36）で

緊急入院。三日ほどで退院しまし

たが、数値は多少下がつたものの高

止まりの状態でした。この日から

毎日、サプリ、薬、点滴がスタート。

一日3回のたまご液体と酵素液体

を1回3ccぐらいシリングジで直接口

の中へ。そのほかに一日2回、腎臓

の薬と自宅での点滴をする毎日で

した。さらに週に一度、病院での血

液検査のほか、病後一年後ぐらいか

らは自宅でお灸を三日に1回ほど

する生活が続きました。



先生に数値が高止まりしているのでいつ体調が崩れるかはわからないといわれながらも一年が無事に過ぎました。2021年のはじめぐらいいから食べ物の好き嫌いがはじまつて大好きで食べていただご飯も食べないように。その年の3月には病院治療中に発作が起き、自分の心臓が止まる思いでした。さら

に突然目も見えなくなってしまい、病院の先生は、脳内で神経がいろいろ誤作動を起こしあじめているかもと。腎臓自体もかなり使い切っていて、体全体で頑張っているからまた発作は起きるかもしれないと伝えられました。

それでもまだ良くなる可能性を信じて、全力でできることをしようと思いました。目は一週間ほどで障害物を避けて歩けるようになります。ほんやりは見えているのではと思えた動きでした。アロハ本人もかなり辛い2ヶ月だったと思いますが、私も少し覚悟をしてい

るつもりでした。

そして5月1日の夜、何かようすがおかしくなり、11時ぐらいに発作がきました。病院からもらつていた座薬を差すと発作はおさまりました。手を握ると、何度も握り返してくれていたので少し安心したんです。

がんばってくれたアロハ

でも翌2日の深夜2時ぐらいには静かに眠りについて、もう何度呼んでも起きてくれませんでした。

アロハへの思いが強すぎて、正直今でも受け入れられない自分がいます。3年近くにおよぶ点滴、病院の生活はとても濃い時間でした。14歳で逝つたアロハから多くのことを教えてもらつた気がします。そして猫にとつて年を重ねると必ずといっていいほどやつてくる腎臓病。実はもつと前に気づけたのではと後悔の気持ちがあります。

2019年の夏は部屋の中が暑過ぎたかもしれませんし。やはり完璧はないですね。



アロハの息子「かい」。やはり腎臓の数値が平均より少し高く、13歳のときから二週間に一度、病院で血液検査、一週間に1~2回自宅で点滴をしています。さらにたもぎ液体と酵素液体サプリを3ccずつ1日1~2回、与えています。



乳腺腫瘍のクロ

ある日、家のベランダに時々やつてくる野良の黒猫が足を血だらけにしていました。あわてて病院に連れて行き治療をして、ケガが治るまで家の中にいさせましたが、良くなると外へ出たいと大泣きするので、仕方なく出すとまた数日後に帰ってきたら足が血だらけに。たぶん喧嘩なんでしょうね。ケガが心配なので大泣きしても家の中で過ごさせたところ、半月もすると諦めたのか泣かなくなりました。

家中では一番下つ端。本人もわかつているのか我が家の中には喧嘩も仕掛けないし頭を猫パンチされても静かにしているいい子でした。

その後、2022年6月に突然おなかの近くに腫瘍ができ、病院で検査すると男の子には珍しい乳腺腫瘍と診断されました。一週間もたたずに腫瘍は親指大になり、先生もこのままだと破裂の可能性もあると。推定18～19歳と高齢なのでかなり悩みましたが翌月に手術を行いました。2ヶ月ほど貧血気味でしたが3ヶ月めごろから低い正常範囲へと回復しました。

今は一日2～3回、たもぎ茸サプリと酵素サプリを、一日1回鹿レバーサプリを与えながら、二週間に1回の定期検査に通つて、食欲も旺盛で元気に過ごしています。



世界中のペットに 健康長寿を届けたい。

商品づくりを通じてずっと願つて
いることがあります。それはペット
たちの「健康寿命」をのばすことで
す。ペットにも人間のような病気が
増えてきています。もちろん病氣に
なつても、飼い主さんにとつては
かわいい我が子ですが、健やかで
なければ大きな負担となります。
何度も病気になつた子たちを見
取った経験から、やはり若いころ
からの体調管理が大切だと考えて
います。そのために腸内環境を整え
て免疫力を強化することに加え、
薬だけに頼りすぎず、できるだけ自
然のもので健康を守るという考え
で商品を作つてきました。まだまだ

その想いをペットを飼うすべての
方にお届けできているとはいえないま
せんが、社会の流れは確実にその
方向に進んでいると感じています。

そして今後は、海外のペットと飼い
主さんのために商品をお届けした
いと考えています。小さなショッピ
ングリストでは大きすぎる目標かもし
れませんが、私と一緒に過ごしてく
れたたくさんのかわいい子たちが、
ママがんばってね！と応援してくれ
ているような気がしています。



2022年12月

ヘルシーアニマルズ代表

酒田 晶子

